

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	嬉野市立塩田小学校
1 前年度 評価結果の概要	・保護者に家庭学習の在り方について、説明をしていく必要がある。学校からの宿題だけではなく、児童自ら積極的に学習に取り組んでいくことができるように保護者に啓発していく。 ・児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて取り組む意欲や態度を育成するため、教育課程を見直して、地域と連携しながら、体験活動の充実を図る。 ・行事内容や校務分掌等の反省を行い、児童数・職員数の減少に対応した行事の精選や校務分掌等の見直しを図り、業務改善及び教職員の働き方改革を推進していく。
2 学校教育目標	元気に がんばる 塩田っ子の育成
3 本年度の重点目標	○地域・家庭と連携・協働し、総合的に教育力を高める（コミュニティとの活動及び家庭学習・家読の奨励） ○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実（校内研究：小中連携による基礎・基本の定着と主体的・対話的な学びによる問題解決能力の育成）

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○児童が分かる、できると思 う授業の充実及び家庭学習 の推進	○日々の学習で「自分が決めた 目標や時間の家庭学習ができ た」と回答した児童が80%以上を 目指す。 ○「自分で計画を立てて、学習に すすんで取り組むことができてい る」と回答した児童が80%以上を 目指す。 ○年間貸出冊数の目標を全学年 100冊以上とし、85%以上の達 成を目指す。	・家庭学習強化週間を設定する。(年2回) ・自由進度学習を取り入れた授業を年1回以 上実施する。 ・週に2回は図書室の本を借りるように呼びか ける。 ・毎月のノーデジタルデーの際に家読を推奨 する。	B	・家庭学習では、自分の目標に向けて 取り組むことができ、1回目の家庭学習 強化週間も実施できた。 ・自由進度学習に向けた研修を行うこ とができ、授業実践の計画を立てるこ ともできた。 ・現在のところ、貸出冊数が100冊を超 えた児童は全体の21%で昨年同時期よ り少ない。今後も図書室利用の回数を 増やすなどの取り組みを継続していく。	A	・年2回の家庭学習強化週間により、「自分が決 めた目標や時間の家庭学習ができた」と回答した 児童が91%で目標を達成することができた。 ・どの学年も自由進度学習を意識した授業を行っ ている為、「自分で計画を立てて、学習にすすん で取り組むことができている」と回答した児童が9 2%で目標を達成することができた。 ・担任の積極的な声かけとノーデジタルデーにお ける保護者の協力のおかげで、昨年度より家読 の実施率が高くなっている。また、年間貸出冊数 も100冊以上の児童が85%に達することができ た。	A	・妥当である。	かしこくプロジェクト	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命 を尊重する心、他者への思 いやりや社会性、倫理観や 正義感、感動する心など、豊 かな心を身に付ける教育活 動	●アンケートで「学校は道徳など 心の教育に積極的に取り組んで いる」と答える保護者が95%以 上を目指す。	・全校でのふれあい道徳の実践 ・道徳の授業について道徳だより、学級通信 等で年2回は知らせる。	B	・10月2日に全校でふれあい道徳を行 う予定。各学年で取り組む内容につい ては、9月にお便りを出し、保護者とも 連携を図る。	A	・アンケートで「学校は道徳など心の教育に積極 的に取り組んでいる」と答えた保護者が96.3% だった。10月に全校でふれあい道徳に取り組む 保護者に観ていただくことができた。また、道徳だ よりだけでなく、学級通信でも道徳について保護 者に伝えることができた。	A	・妥当である。	やさしくプロジェクト	
	●いじめの早期発見、早期 対応に向けた取組の充実	●いじめ防止等(いじめの認知・ 防止のための取組・事案対処等) について組織的に対応ができ ていると回答した職員が90%以上 を目指す。	・教育相談週間を、年1回以上実施する。 ・毎月心のアンケートを実施し、気になる点は 児童に聞き取りを行ったり、変容に気を配った りし、スズキ校務等に記録を残す。 ・SCIによる心の授業を各学年1回ずつ行う。 ・毎月1回、共通理解の時間を設定し、支援の 必要な児童については、共通理解の場で確 認する。	B	・教育相談は11月に行う予定。 ・毎月、心のアンケートを実施し、集計 表にまとめている。気になる点につい ては、児童に聞き取りし、共通理解の 場で確認している。 ・共通理解の時間に、支援の必要な児 童について確認し合っている。 ・SCIによる心の授業は、これまでに2学 年行った。後の学年は、今後実施す る。	A	・いじめ認知・防止及び事案対処に関して100%の 職員が適切に対応できていると回答した。 ・11月の教育相談週間において、担任がクラス全 児童と個別面談を実施し、児童一人ひとりの心の 状況や生活面の把握に努めた。 ・毎月「心のアンケート」を実施し、その集計結果 を活用して気になる児童に対して聞き取りを行 い、教職員間の共通理解の場で情報共有を図っ た。 ・SCIによる心の授業を全学年で実施し、児童の心 の健康教育の充実に努めた。	A	・妥当である。 ・いじめはあるのか。 ・継続しているいじめ事案はあるか。 ・これは!?というような小さな出来事も 共有されていると、担任だけではなく全 体的な対応につなげていけるのではと 思う。	やさしくプロジェクト	
	●◎児童生徒が夢や目標を 持ち、その実現に向けて意 欲的に取り組もうとするため の教育活動。	●◎「将来の夢や目標を持ってい る」について肯定的な回答をした 児童生徒85%以上を目指す。	・体験活動において児童に活動の見通し、及 び学習の振り返りを行う。 ・キャリアパスポート記入週間を設定する。 ・キャリアパスポートを活用し、学年や学期の 目標及び振り返りを行う。(年2回)	B	・学期末にキャリアパスポート週間を設 定している。各学級、将来の夢につい て考える時間を今後設定してもらおう。 ・体験活動の振り返りは、ほとんどの学 年でその都度行っている。	A	・「将来の夢や目標を持っている」について95 パーセントの児童が肯定的な回答をした。 ・体験活動の振り返りやキャリアパスポートの記入 ができた。また、ゲストティーチャーの話を聴くこ とで、将来の夢についてさらに考えを深めている学 年もあった。	A	・妥当である。	やさしくプロジェクト	
	○挨拶・返事の励行	○アンケートで「地域の方にも挨 拶・返事ができている」と答える児 童・保護者が共に85%以上にな ることを目指す。	・挨拶の意味を学年に応じて理解させ、挨拶 や返事の仕方を具体的に指導する。 ・委員会活動による挨拶の主体的な取組を実 践する。 ・学級懇談会、学級通信等を通して、家庭でも 児童が挨拶できるように、保護者に働き掛け る。 ・登校班チェックカードに「地域の方への挨 拶」の項目を入れ振り返らせる。	B	・運営委員会が朝、挨拶運動をしてい るので、張り切って挨拶をする児童も 増えている。 ・懇談会などで、挨拶についての呼び かけをした。今後も継続していく。 ・11月に登校班チェックを行う予定。 ・毎学期の地区児童会でも地区の方 についてへの挨拶の項目を入れて、振り 返しをさせている。	A	・アンケートで「地域の方にも挨拶・返事ができ ている」と答えた児童は97.8%、保護者は87. 7%だった。11月の登校班チェックでも、地域 の方への挨拶はできていた。 ・運営委員会が挨拶運動で「今日、一番挨拶が上 手だった人」を放送で知らせたり、気持ちの良 い挨拶の動画を全校に発信したりすることで、挨拶 の上手な児童も増えてきた。	A	・妥当である。 ・大変よく出来ている ・家の前で帰宅時の子供さんがしっか り挨拶してくれる。 ・アンケートでは97%、実際はもう少し少 ないのでは、と感じている。気持ちのい い挨拶を大人から率先していきたいと 思う。	やさしくプロジェクト	

●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○学校評価アンケートで「早寝・早起き・朝ごはん」が実践できていると答える児童・保護者を共に85%以上を目指す。	・年2回、生活がんばりカードで「早寝・早起き・朝ごはん」をチェックする。 ・専門家と連携し、SNSやゲーム依存症に関する保健指導を講演会や学級指導などで継続して行う。 ・「早寝・早起き・朝ごはん(生活習慣)」に関する授業を年1回実践する(担任及び栄養教諭とのTT)。	B	・1回目の生活がんばりカードは、夏休み明けに行った。集計後、実態に応じた指導を行う。 ・情報モラル(SNS・ゲーム依存など)に関する講演会については、4月の授業参観時に全学年の児童が講話を聞いた。 ・「早寝・早起き・朝ごはん(生活習慣)」に関する保健指導を全学年に行った。	A	・「早寝・早起き・朝ごはん」が実践できていると答えた児童は91.3%、保護者は87.6%。成果指標を達成することができた。 ・生活がんばりカードを夏休み明け、冬休み明けに実施し、集計後、実態に応じた指導を行った。 ・情報モラルに関する講話を4月(全学年対象)、10月(高学年対象)に実施。学級でも実態に応じてSNSに関する指導を行った。 ・歯科校医や栄養教諭と連携し、ブラッシング指導や食育に関する授業を行った。	A	・妥当である。	たくましくプロジェクト	
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月当たり45時間以内)を遵守する職員を80%以上を目指す。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上(職員80%以上)を目指す。	・定時退勤推進日(毎週金・第3水)の完全実施(毎回掲示物の提示)。 ・反省をもとに分掌事務等の分担の見直し(年2回)。 ・デジタル化の推進 ・年次休暇取得日数の見える化と計画的な取得のために行事日程の工夫・改善を目指す。	B	・時間外勤務時間は4月より徐々に減少し、8月まで平均33.26時間である。校務分掌等の見直しを図る。 ・定時退勤推進日を設定しているが実施できていない。9月からは完全実施を目指す。 ・夏季休業中は、年休取得しやすいように、研修や行事日程を工夫し、目標の4日間が取得できた。 ・生成AIの校務導入を施行した。今後、工夫・改善を進めていく。	B	・教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月当たり45時間以内)を遵守する職員を84.6%で1学期より減少し、12月現在平均35.3時間である。 ・年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上(職員は33.3%だった)。 ・職員アンケートの「定時退勤日を守っている」と回答した職員は、63.7%であり、更なる業務内容の見直しが必要である。 ・生成AIに係る校内研修を行い、通信作成等での活用があった。職員室へのモニター導入により連絡事項等の簡便化を図っていく。	B	・妥当である。 ・しっかり休みを取ってください。 ・せめて年次休暇だけでも、しっかり取っていただきたい。	管理職
		○事務時間の確保	○会議や打ち合わせの時間の削減を目指す。	・放課後の事務時間確保のために連絡会をなくし、職員会議等を計画的に行う。 ・学期末及び年度末事務のための週間の設定(年2回)。 ・昼休みの児童への指導の時間をなくすために、委員会活動の進め方などの見直し。 ・職員会議等の提案方法を工夫し、会議時間削減を図る。	B	・計画的な職員会議を開催し、月に1回の共通理解を図る連絡会だけにしたため、事務時間の確保はできた。反面、確認事項を共通理解するため時間が必要となった。 ・通知表の所見をなくし、個人面談の時間を延長したため、学期末の事務時間に余裕ができた。	B	・職員アンケートの「業務改善で勤務時間内での放課後の時間を確保できた」と回答した職員は、45.5%であった。 ・掃除時間を利用して地区児童会や教育相談、全校集会をしたり、給食時間にオンラインで表彰をしたりする等、時間確保を行った。 ・学期末、年度末の事務時間設定はできた。	B	・妥当である。 ・時間確保ができているか分かりづらい。	管理職
●特別支援教育の支援体制の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○アンケートで「児童の困り感や実態を把握し、きめ細やかな指導・支援を組織的に行うことができる」と答える職員が90%以上になることを目指す。	・支援を要する児童の情報交換を、月1回行い、「共通理解」ファイルに記録を蓄積する。 ・特別支援教育に関する研修会を年2回以上開く。 ・保護者に対して啓発活動を年1回以上行う。 ・特別支援についての啓発活動を各学年1回以上行う。	B	・全職員での共通理解、ケース会議を実施した。 ・事例研究会を行い講師を招いて研修した。 ・4月は、学年の実態に合わせてプレゼンシートを通して啓発した。 ・8月は、インクルーシブ教育の推進のため、オンラインで話した。 ・年度途中で、今後、児童に適した学習環境の調整を行っていく予定である。	A	・アンケートで「児童の困り感や実態を把握し、きめ細やかな指導・支援を組織的に行うことができている」と答えた職員は90%だった。 ・巡回相談も含め、特別支援教育に関する研修会を年2回以上行うことができ、児童に適した学習環境の調整も行うことができた。 ・2月の入学説明会で、保護者に対して啓発を行う予定である。	A	・妥当である。	特別支援コーディネーター	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
重点取組				具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)		進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○地域連携の推進	○コミュニティとの活動の推進と充実	○アンケートで、地域の良さを見つけることができたと答える児童及び、学校は体験活動の充実に努めていると答えた保護者を共に85%以上を目指す。	・各学年で、外部(地域の老人会等)や地域ボランティアと連携した学習活動を2回以上行う。 ・事後指導では、(発表会、感想などの手紙での交流)だけでなく、地域の良さに気づくような手立てを意識して活動を行う。	B	・1、2年生は芋さし、2、3年生は玉ねぎ収穫、3・4年生は稚魚放流・塩田川講話、5年生は鍋野和紙講話、6年生は塩田津講話、シンサポーター、そば作りに協力してもらっている。 ・学習活動の前後に、地域の特色やよさについて担任から指導を行った。お世話になった方にお礼の手紙を渡し、地域の方々に支えてもらって活動することに気付くことができている。	A	・「地域の良さを見つけることができた」と答えた児童が93.5%、「学校は体験活動の充実に努めている」と答えた保護者が100%。成果指標を達成することができた。 ・年間を通して、活動の前後に地域の特色や地域の方の活躍などを考えるようにすることで、児童が地域の方々に支えていただきながら生活したり、活動したりできていることに気づき、感謝の気持ちを手紙で表現することができた。	A	・妥当である。 ・地域コミュニティの方々を中心とした活動で、子供たちがいろいろな活動をしたりたくさんの人達と交流できている。 ・コミュニティ研究大会で、いい子どもはいい学校からいい地域から育つとの話があった。そんな事を地域でも話題にしていきたい。	たくましくプロジェクト	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	児童の学びと心の成長を支える多面的な取り組みが着実に成果を上げる一方、教職員の働き方改革においてはさらなる課題が顕在化した。次年度は、児童のより良い学習環境と安心できる学校生活の実現を目指すとともに、教職員の働きやすさにも配慮した持続可能な学校運営を目指す。 1.学力・主体的学習のさらなる充実…自由進度学習や家庭学習の支援を継続し、児童の主体的な学びを促進する。ICTや生成AIの活用を拡大し、個別最適化された学習環境の整備に努める。 2.教職員の業務改善・働き方改革の推進…定時退勤や年次休暇取得の促進を図る。会議時間の見直しやデジタルツールの活用により事務時間の確保を進め、業務の効率化を推進する。 3.地域連携・体験活動の推進…児童が地域の伝統や特色に触れ、地域の方々との交流を深め、学校と地域が一体となった教育環境の強化を図る。
----------------	--